不登校生受け入れ・地域貢献型の活動に注力

少子化時代に生徒数増

松山学院高 コース再編など改革奏功

2021年春に、松山城南高校から改称した松山学院高校（松山市北久米町）が、不登校の積極的な受け入れや、地域貢献型の活動に力を入れている。全校生徒は改称直前の約630人から約760人に増加するなど、学校改革の効果が表れている。

同校は創立130年の伝統校だが、少子化進行を受け刷新を決断。校名の変更をはじめ、コースの再編、制服の一新などに踏み切った。

コースの再編では商業科や看護科の募集を停止。22年度には普通科をさらに細分化し、新たな特色を出すため、不登校に悩む生徒を対象にした「NEW」コースを新設した。

きめ細かなサポートを目指し、専任教員を配置。不登校で崩れた生活リズムを回復してもらうため、1時限目の授業を選択制にしたり、休みがちな生徒の出席日数を確保するため、夏休みや冬休み中の追加授業に応じたりしている。

昨年度に45人でスタートし、本年度の入学者は約110人と2倍以上に増えた。2年生の男子（16）は「クラスメートが自分と似た悩みを持っていて安心感がある」。同学年の女子（16）は「しんどくて授業を途中で抜けても、みんな何も詮索しない」と居心地がいい様子だった。

生徒による地域貢献活動も学校の活気につながっている。

非常食を備蓄したままにせず、使って賞味期限を身につけてもらおうと、調理科の生徒らが非常食を活用するレシピを考案。乾パンをシフォンケーキ、アルファ米を中華おこげなどに再利用するレシピを冊子に掲載。災害時に食べやすくする狙いもある。

今年3月の地域住民との合同防災訓練では一部を振る舞い、好評を得た。こうした学校の活性化プロジェクトを昨年度から2年以上立ち上げているという。

吉田慎吾校長は温かい学校づくりの取り組みが生徒らに受け入れられていると手応えを示し、「さらに笑顔があふれる学校にしたい」と話す。（宇和上颯）

上松山学院高のNEWコースの生徒。自分に合ったペースで学校生活を送る。4月下旬下非常食を活用した弁当を持つ調理科の生徒（画像の一部を加工しています）＝2月中旬、いずれも松山市北久米町